

機 器 仕 様 書

| 施設名 | 横浜市立大学附属病院 | | |
|------------|---|--------------------|--|
| 装置名 | デジタル式X線一般撮影システム | | |
| 装置概要 | 胸部及び腹部等のX線撮影が可能なデジタル式X線一般撮影装置。最大約43cmの撮影視野で、胸部全体を含めた撮影が可能である。検出器の感度向上により低線量での撮影が可能のため、低被ばくで高画質な画像が出力できる。また、人体の厚みを考慮した画像処理により、白/黒潰れ部の描出改善ができる。画像ヒストグラム解析の安定性が向上し、胸水等の胸部変化を鋭敏にとらえることができ、経過観察等に適した画像を提供できる。 | | |
| 装置構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断用X線装置 二式 ・ 汎用X線診断装置用電動式患者台(バッテリー、充電機器等を含む) 二式 ・ 画像処理システム 二式 ・ ネットワーク 一式 ・ その他付属機器：長尺電動昇降式立臥位撮影台、グリッド、画像評価・解析用ファントム、スカイビュー撮影台、脚部専用撮影台、画像管理用PC、机、椅子 等 | | |
| 項 目 | 要 求 条 件 | | |
| 1. 診断用X線装置 | | | |
| X線高電圧発生装置 | 1 | 制御方式 | インバータ方式であること。 |
| | 2 | 最高出力 | 80kW以上であること。 |
| | 3 | 撮影管電圧 | 最小40kVから最大150kVの範囲で設定可能で当院の撮影環境に対応可能なこと。 |
| | 4 | 撮影管電流 | 最小10mA、最大800mAの範囲で設定可能で当院の撮影環境に対応可能なこと。 |
| | 5 | 撮影mAs | 最小0.5mAs、最大630mAsの範囲で設定可能で当院の撮影環境に対応可能なこと。 |
| | 6 | 最短撮影時間 | 1msec以下であること。 |
| | 7 | 自動露出機構 | 自動露出機構(立位・臥位)を装備すること。また、FPDの感度に合わせてフォトタイマ感度の設定を行うこと。詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 8 | アナトミカルプログラムの有無と設定数 | アナトミカルプログラムを有し、170種類以上設定可能であること。 |
| | 9 | X線照射確認表示 | X線照射を行ったことが操作パネルにて確認可能であること。 |
| | 10 | 操作パネル | カラーLCDタッチパネルであること。 |
| | 11 | 線量管理 | 面積線量計やDI(DED)を有すること。 |
| X線管 | 12 | 焦点サイズ | 小焦点0.6mm、大焦点1.2mmの焦点を有すること。 |
| | 13 | 陽極蓄積熱容量 | 400kHU以上であること。 |
| | 14 | ターゲット材質 | タングステンターゲットを備えていること。 |
| | 15 | ターゲット角度 | 12° ～16° の角度であること。 |
| コリメータ | 16 | フィルタの選択 | 電動機構であること。 |
| | 17 | フィルタの種類 | 厚さの異なる2種類のCuを有すること。 |
| | 18 | APRとフィルタ連動 | 連動が可能であること。 |
| | 19 | 照射野ライト | 照射野ライトを備えていること。 |
| 機構 | 20 | 縦・横ストローク | 縦移動ストローク2950mm、横ストローク1400mm以上であること。 |
| | 21 | 上下ストローク | 上下動ストローク1600mm以上であること。 |
| | 22 | X線中心 | 撮影中心部の最低位が350mm以下になること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 22 | ロック機能 | 電磁ロックを備えていること。 |
| | 23 | レール材質 | スチールまたはアルミニウムであること。 |
| | 24 | X線管回転支柱まわり(水平) | X線管装置回転(支柱回り)が-180° ～+120° 以上の回転範囲を有すること。任意の角度に電磁ブレーキにて固定できること。 |
| その他 | 25 | X線管回転支持腕まわり(垂直) | X線管装置回転(支持腕回り)が±180° の回転範囲を有すること。任意の角度に電磁ブレーキにて固定できること。 |
| | 26 | オールフリーSWの有無及び操作性 | 片手でオールフリー操作が可能なこと。 |
| | 27 | FPDとの連動 | 富士フィルムメディカル社製「CALNEO Flow」、「CALNEO GL」と連動でき、通常の撮影および長尺撮影が可能であること。詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 28 | X線管移動時の補助機能 | パワーアシスト機能を有し、X線管移動が容易に行えること。 |
| | 29 | 表示部 | カラーLCDタッチパネルであること。 |
| | 30 | 撮影サイクル | 5秒以内で次の撮影が可能なこと。 |

| 項 目 | | 要 求 条 件 |
|------------------------|----------------------------|--|
| 操作性 | 31 撮影条件設定の変更場所 | X線管と検査室外の操作パネルで可能なこと。 |
| | 32 管球角度表示 | 全方向デジタル表示可能なこと。 |
| | 33 オートコリメーション | 選択した撮影サイズや撮影オーダーに合わせて照射野が連動すること。 詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 34 オートポジションの有無と設定可能数 | オートポジション機能を有し、アナトミカルプログラムごとに設定可能なこと。48種類以上設定が可能であること。 |
| | 35 FPDに対する自動追従機能(立位台) | 可能であること。 |
| | 36 SIDトラッキング機能(臥位) | 可能であること。 |
| | 37 アナトミカルプログラムと撮影オーダーの連携 | コンソールで選択した撮影オーダーに合わせて撮影条件の自動設定が連動すること。 詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 38 アナトミカルプログラムとオートポジションの連携 | 可能であること。 |
| | 39 ハイトラッキング機能(立位) | 可能であること。 |
| | 40 X線曝射用フットスイッチ | 撮影室内でも撮影が可能なX線曝射用フットスイッチを備えること。 |
| | 41 性腺等防護フィルター | X線管に着脱可能な性腺および水晶体防護フィルター(計10枚以上)を備えること。 |
| | 42 天上ケーブル収納 | 天上レールに収納すること。 |
| 2.汎用X線診断装置用電動式患者台 | | |
| 汎用X線診断装置用電動式患者台(立位撮影用) | 43 汎用X線診断装置用電動式患者台(立位撮影用) | 富士フィルムメディカル社製「CALNEO PU TypeB」と同等以上の性能を有する患者台を二式備えること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 44 FPD | 富士フィルムメディカル社製「CALNEO Flow C77」を二式、「CALNEO Flow C47」を一式、「CALNEO Flow C12」二式と同等以上の性能を有するFPDを備えること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 45 フォトタイム受光部 | 各撮影室のX線装置メーカーのフォトタイムシステムを装備すること。また、FPDの感度に合わせてフォトタイム感度の設定を行うこと。詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 46 FPDの脱着 | 17×17inch相当、14×17inch相当のFPDの脱着が簡便に工具なしででき、それぞれが使用可能なこと。また、FPDケーブルはカセットトレイ内配線仕様とすること。 |
| | 47 グリッドの機構 | 干渉縞の影響がないこと。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 48 グリッドの種類 | 撮影台に固定型のグリッドを装着し、取り外しが可能なこと。またカセットホルダー用のグリッドを用意すること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 49 FPDドッキングスタンド | FPDドッキングスタンドを必要数用意すること。ドッキングスタンドは保管と同時に充電も可能なこと。詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 49 受像面の可動範囲 | 撮影中心部の最低位が350mm以下、最高位が1700mm以上であること。 |
| | 50 受像部上下動の駆動、ロック方式 | 受像部の上下動が手動、電動昇降の双方が可能で、かつ電磁オフロック式であること。 |
| | 51 安全装置 | 挟み込み防止機能を有していること。 |
| | 52 電動握り棒 | 取り外して設置すること。 |
| | 53 左右グリップ | 取り外して設置すること。 |
| | 54 患者保持機器 | 汎用型万能握り棒大林製作所製「Shuttle」と同等以上の性能を有した握り棒を二式備えること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 55 情報表示モニター | スマートコントローラー機能を有した情報表示モニターを検査室内に設置すること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 55 フットスイッチ | 受像部を上下動するためのフットスイッチを備えること。 |
| 汎用X線診断装置用電動式患者台(臥位撮影用) | 56 汎用X線診断装置用電動式患者台(臥位撮影用) | 富士フィルムメディカル社製「CALNEO PT」と同等以上の性能を有する患者台を二式備えること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 57 FPD | 富士フィルムメディカル社製「CALNEO Flow C77」を二式、「CALNEO Flow C47」を二式、「CALNEO Flow C12」を一式と同等以上の性能を有するFPDを備えること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 58 フォトタイム受光部 | 各撮影室のX線装置メーカーのフォトタイムシステムを装備すること。また、FPDの感度に合わせてフォトタイム感度の設定を行うこと。詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 59 FPDの脱着 | 17×17inch相当、14×17inch相当のFPDの脱着が簡便に工具なしででき、それぞれが使用可能なこと。また、FPDケーブルはカセットトレイ内配線仕様とすること。 |

| 項 目 | | 要 求 条 件 | |
|------------------------|----------|---|--|
| 汎用X線診断装置用電動式患者台(臥位撮影台) | 60 | FPDドッキングスタンド | FPDドッキングスタンドを必要数用意すること。ドッキングスタンドは保管と同時に充電も可能なこと。詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 61 | グリッドの機構 | 干渉縞の影響がないこと。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 62 | グリッドの種類 | 撮影台に固定型のグリッドを装着し、取り外しが可能なこと。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 63 | 寝台の可動範囲 | 天板が最低位が360mm以下、最高位が850mm以上であること。 天板の可動域が左右250mm以上、長軸1000mm以上であること。 |
| | 64 | 寝台上下動の駆動 | 寝台の上下動が電動昇降で任意の高さで止まること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 65 | 握り棒 | 寝台の左右に握り棒を設置すること。 |
| | 66 | カセットホルダー | 補助カセットホルダースタンド「大林製作所製PLESIO」(マルチホルダー仕様)と同等の製品を二式用意すること。また、臥位側面撮影用カセットホルダーを二式用意すること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 67 | フットスイッチ | 寝台を上下動、天板のオフロックするためのフットスイッチを備えること。 |
| | 68 | 天板の材質 | カーボン素材であること。 |
| | 69 | 天板の耐荷重 | 天板の耐荷重が180kg以上であること。 |
| その他 | 70 | FPD接続(すべてのFPD共通) | 有線および無線の両接続方式で撮影できるシステムであること。 バッテリーの故障時でも有線接続で撮影可能なこと。 |
| | 71 | バッテリー交換(すべてのFPD共通) | 脱着可能であること。また、FPD1枚につき予備バッテリー1枚以上を用意すること。 詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 72 | バッテリー充電(すべてのFPD共通) | FPD有線接続ではバッテリーの充電が可能なこと。 バッテリー充電器は2枚以上同時に充電できる充電器を必要数用意すること。 詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| 4.コンソール | | | |
| コンソール | 73 | 撮影条件の自動設定 | 選択した撮影オーダーに合わせて撮影条件の自動設定が連動すること。 詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 74 | 照射野の自動設定 | 選択した撮影サイズに合わせて照射野が連動すること(手動による調整も可能)。 詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 75 | 写損を含めた画像再表示が可能 | 検査終了登録後、画像データを生データで保存し画像が再表示できること。 |
| | 76 | 放射線情報システムとの連携 | 既存の放射線情報システムと連携すること。 |
| | 77 | 撮影プロトコル | 撮影プロトコルの設定は放射線部担当者と協議して設定すること。 |
| | 78 | バックアップ機能 | FPD故障時は各撮影室のFPD「CALNEO Flow」と容易に交換可能で、同一コンソールで制御できること。 |
| | 79 | 接続機能 | DICOM接続が可能でMWM、MPPSができること。また、RDSRの出力が可能で、既存のコンソール全てでRDSR出力可能にすること。詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 80 | 放射線発生装置との連携 | コンソールと放射線発生装置が連携し、コンソールの撮影メニューに設定された撮影条件が放射線発生装置に自動で制御されること。 |
| | 81 | EI値の活用 | エキスポージャーインデックス(EI:露光指数)値が活用できるように設定すること。詳細については放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 82 | 日本語表示 | ひらがな・カタカナ・漢字に対応していること。 |
| 83 | メンテナンス機能 | 既存の装置保守用のリモートメンテナンスと同様な管理を行うこと。但し、接続については、常時接続とはせず、必要時の接続とできるよう機器などを準備し、運用ルールを事前に当院総務課システム担当と協議して決めること。 | |

| 項 | 目 | 要 求 条 件 | |
|------------|--------------|--|--|
| 5.画像処理ユニット | | | |
| 画像処理 | 84 | 画像処理項目 | 既存のコンソール(当院に設置している全て)も含めて、全ての撮影オーダーが実施できるように処理項目を設定すること。詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 85 | 画像処理機能 | 自動濃度調整、階調処理、周波数処理(エッジ強調等)、DR圧縮同等処理、マルチ周波数同等処理、ノイズ抑制処理、グリッドモアレ除去、Dynamic Visualization II 処理、ガーゼ・カテーテル等の強調処理、体動検出技術、エネルギーサブトラクション処理、Virtual Grid、体動検出技術、長尺撮影画像処理など、オプションを含む全ての画像処理が可能であり、当院の要望する画質に調整可能なこと。 これらの画像処理機能の中で、既存のコンソール(当院に設置している全て)へも適応可能な機能は全て導入すること。 詳細は、放射線部担当者と事前に協議すること。 |
| | 86 | トリミング | 撮影メニューごとにサイズの指定ができ、撮影後自動トリミングが可能なこと。 半切、大角、四切、六切のほか、ユーザーの指定したサイズに選択によりトリミング可能なこと。 |
| | 87 | アノテーション | 定型文字および任意の文字入力が可能であること。また、定型文字の登録機能を有すること。 |
| 操作環境 | 88 | 画像処理モニタ | 17inch以上の液晶カラーディスプレイであること。 |
| | 89 | 画像処理コントロール | タッチパネルまたはマウス等で操作可能であること。 |
| | 90 | プレビュー表示 | 5秒以内に表示されること |
| | 91 | 画像編集機能 | 濃度画質調整や画像回転・反転が可能なこと。 |
| | 92 | ローミング機能 | ローミング機能が可能なこと。 |
| | 93 | 画像の並べ替え | 画像の並べ替えが可能なこと。 |
| | 94 | 撮影順の変更 | 撮影順の変更が可能なこと。 |
| | 95 | 患者情報の修正 | 患者情報の修正が可能なこと。 |
| | 96 | 撮影メニューの変更 | ユーザーによる撮影メニューの変更や追加が可能なこと。 |
| | 97 | 画像保管容量 | 半切サイズで4000枚以上の画像が保管できること |
| 98 | MWM以外の患者登録方法 | 磁気カード(バーコード印字)を用いた患者登録が可能なこと。また、徒手入力が可能なこと。バーコードリーダー及びスタンド二式、カードリーダー二式を用意すること。バーコードリーダーは当院の診察券から患者IDや氏名、生年月日を読み取り可能なこと。 詳細は放射線部担当者と事前に協議すること。 | |
| DICOM規格 | 99 | DICOM 出力 | 全ての画像をライフサイズで、一般撮影室に設置されている既存のドライブレジャーに出力が可能なこと。また、DVDやUSB等に出力可能なこと。 |
| | 100 | DICOM Storage | 既存のPACSと接続すること。転送には指定した検像端末2台とコンソールから送信できること。 詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 101 | DICOM MWM | 既存のRISと接続し必要なオーダー情報を取得できること。また、必要な設定は全て行うこと。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 102 | DICOM MPPS | 既存RISと接続し、既存の撮影詳細項目と同様の情報を装置から取得し保存できること。 詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| 6.その他付属機器 | | | |
| | 103 | 長尺電動昇降式立臥位撮影台 | 長尺電動昇降式立臥位撮影台を三式備えること(設置、据付工事を含む)。また、以下の機能を有すること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・1回のX線照射で長尺撮影ができ、立位、臥位撮影がFPDの取り外しなしで可能なこと。 ・撮影台が反時計周りに90° 以上回転可能な長尺電動昇降式立臥位撮影台を備えること。 ・撮影距離に応じたFPDの拡大補正が可能なこと。 ・最大撮影サイズ17×49inch以上のFPDを備え、最大サイズにて撮影ができること。 ・撮影台用ハンドルは受像部の両側に取り付けること。 ・受像部を上下動するためのフットスイッチを装備すること。 ・撮影台に固定型のグリッドを装着すること。 ・導入するX線発生装置を用いて撮影できること。 |

| 項 目 | | 要 求 条 件 |
|---------------------|--|---|
| 付属機器 | 104 グリッド | 導入するFPDに対応したグリッド(中間部材Al、グリッド密度40本以上)を備えること。表面は特殊シートで覆われ、構成は以下の通りとする。また、グリッドの専用収納棚を必要数用意すること。詳細は放射線部担当者と協議すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・17×17inch 立位台用:180cm(グリッド比10:1)2枚 120cm(グリッド比8:1)2枚 臥位台用:120cm(グリッド比8:1)2枚 ・14×17inch キャップ型:120cm(グリッド比8:1)2枚(横方向) ・10×12inch キャップ型:120cm(グリッド比8:1)2枚 ・長尺 撮影台用:180cm(グリッド比3:1)3枚 |
| | 105 ASSISTA Management | 当院のASSISTA Managementに接続し、再撮数を管理できること。 |
| | 106 画像評価・解析用ファントム | 画像評価・解析が行なえるアクロバイオ社製TO MTFタングステンエッジと同等以上の性能を有するファントムを一式用意すること。B4およびA4サイズの解析用ノート型PCを二式ずつ納入すること。OSはWindows 10 Pro 64bit、メモリ 8GB以上、SSD 512GB以上もしくはHDD 1T以上であること。ワイヤレス光学マウス等を有すること。また、インクジェットプリンター(スキャナー機能付き)を一式、統計解析ソフトを一式、画像解析ソフトを一式備えること。詳細は当院放射線部担当者と協議の上決定すること。 |
| | 107 スカイビュー撮影台(膝軸位撮影用) | 「CALNEO Flow C12」対応可能なスカイビュー撮影台を二式用意すること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 108 脚部専用撮影台 | 大林製作所製「X-cube」と同等の機能を備える専用撮影台を二式用意すること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 109 コンソール台 | 横幅1470mm、奥行き780mm、高さ80～109mmまで電動昇降にて調整可能なコンソールを設置できる作業台を二式備えること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| | 110 椅子 | 上記のコンソール台に対応可能な椅子を8脚備えること。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 |
| 111 インターフォンシステム | 既存のインターフォンシステムが使用可能なこと。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。 | |
| 7.設置条件・工事環境などの事項 | | |
| 112 搬入経路 | 当院の指定する場所から搬入可能であること。詳細は当院の施設担当と別途協議すること。 | |
| 113 撤去、据え付け、調整工事 | すべての装置は、令和3年9月30日までに設置し、検収可能なこと。他検査室の工事日程が重ならないよう日程を調整すること。設置する装置は設置翌年度末時点でオプションも含めて最新の機能であること。現有装置関連機器の撤去、搬出、個人情報削除、引取をすること。新規関連機器の搬入、据え付け、および試運転調整を行なうこと。また、施設側電源設備、給排水管等、配線、配管などの付帯工事も納入業者の責任にて行うこと。詳細は事前に放射線部担当者と協議すること。全ての工事は、当院施設担当および該当部署と事前協議しその指示に従い施行すること。 | |
| 114 安全性 | 薬機法医療機器として承認済みの装置であること。緊急時に対応する安全装置を有すること。停電時のデータバックアップ機能を有すること。 | |
| 115 耐震対策工事 | 震災対策として振動、落下、転倒等を防ぐための対策を行うこと。X線撮影装置等の据え付けは、(一社)日本画像医療システム工業会規格 JESRA X-0086 *A -2017「医用画像診断装置の耐震設計指針」に従っていること。また、指針を遵守して設置したことを証明する報告書(設置詳細)を提出すること。なお、指針通りに固定・設置できない場合は、その理由を報告し、病院側の了承を得ること。 | |
| 116 診療等の確保 | 工事期間中も他検査室・診察室が支障無く診療可能とすること。 | |
| 117 検査室表示と内装 | 医療法等に基づき、必要な表示灯、標識、従事者に対する注意事項掲示、患者に対する注意事項掲示を設置すること。医療ガス配管設備、非常用および一般用コンセントは現状のままとし、検査室の天井、壁、床、扉の張り替えや塗り替えを行うこと。また、観察窓のロールカーテンを新規に設置すること。詳細は放射線部担当者と協議のうえ決定すること。 | |
| 118 設備・設置・改修・接続等の費用 | 装置の設置工事、建築・設備の改修工事、設置に伴う什器・備品等の移設費、院内既存システムとの接続・配線工事、及び接続に関する全ての費用(ソフト開発費等も含む)は本体価格に含むこと。 | |
| 119 養生 | 各検査室の診療に支障をきたさないように防塵・防音・防臭・クリーン度を確保すること。詳細は放射線部担当者と協議のうえ決定すること。 | |
| 120 装置性能 | 装置性能とは当院に設置した装置の性能を指す。 | |
| 121 初期データ | 装置構成一覧、備品一覧、設置時の性能・出力測定結果、動作試験結果等を2部、PDFデータと共に提出すること。また、設置データ等は電子ファイルをDVD等のメディアに記録し提出すること。 | |
| 122 画質調整・改善 | 臨床に支障が生じないように画像調整を行うこと。 | |

| | 項 目 | 要 求 条 件 |
|------------|---|--|
| その他事項 | 123 保守体制 | 装置故障時や緊急時に、年間を通じて24時間の修理対応を行うこと。電話回線によるオンラインサポート(リモートメンテナンス)が可能な機器については、オンラインサポートを導入すること。導入時にはシステム担当と協議すること。 |
| | 124 製品保証 | 引き渡し後、翌年度末までは無償でフルメンテナンス保証を行うこと。無償保障保守期間終了後に5年間以上の保守契約が可能なこと(事前にメンテナンス内容を提出すること)。また周辺機器を含め10年間修理部品を確保すること。医療機器の修理業の許可を得たものに業務委託できること。 |
| | 125 議事録、課題管理表 | 入札直後の打ち合わせから検収までの期間に使用した資料、打ち合わせの内容は全て記録し、病院側と相互に内容確認すること。議事録と資料はファイリングして複写を含め2部提出すること。検収後の継続案件についても議事録、課題管理表を作成し、随時提出すること。 |
| | 126 取扱説明書、導入時研修 | 操作マニュアルは、全ての機器について日本語版でデジタルデータも含めて印刷物を2部以上用意すること。導入時研修における取扱説明や教育訓練は放射線部担当者と事前協議し、必要な人員を派遣し、十分な技術を取得するまでの期間、無償で対応すること。 |
| | 127 簡易操作マニュアル | 当院放射線部担当者と事前に協議し、患者属性の登録から検査終了までの流れに沿った日本版の簡易操作マニュアルを作成し、デジタルデータおよび印刷物を提出すること。 |
| | 128 竣工図面(システム構成図) | デジタルデータを含めて印刷物を必要数提出すること。 |
| | 129 ネットワーク図 | 既存システムに追加し、最新のネットワーク図を作成すること。作成したネットワーク図はデジタルデータで提出すること。詳細は、放射線部担当者と協議のうえ決定すること。 |
| | 130 セキュリティ | 院内ネットワークにおける、セキュリティ対策(ウイルス対策、各機器の要塞化、設定、その他)については病院の基準、要求に応じた対応を行うこと。そのために必要なソフトウェアや機器についても本体価格に含むこと。セキュリティソフトなどについては病院指定のものを導入すること。また、各機器で利用しているOS他のソフトウェアについては、発見されるセキュリティホールへの対応を適切に行えるものであること。また、各サーバ及び端末は、当院のNTPサーバに接続し、装置の時刻設定管理を行えること(システムの動作が不安定になる場合はこの限りではない)。 |
| | 131 検収 | 検収項目について、当院物品管理担当及び放射線部担当者と合意の上、検収を実施すること。 |
| | 132 瑕疵(かし) | 機器の瑕疵については、無償でその対応を行うこと。また、当該機器に関連した他のシステムとの通信障害や動作障害などが発生した場合は、早急に原因を究明し問題解決を図ること。 |
| | 133 年号 | 年号(和暦)変更があった場合には、無償でその対応を行うこと。また、当該機器に関連したほかのシステムとの通信障害や動作障害等が発生した場合は、早急に原因を究明し問題解決を図ること。 |
| | 134 HIS・RISの連携 | 既存画像ネットワークシステム、放射線情報システム及び医療情報システムと接続しMWM、MPPSなど指定したデータの送受信が可能なこと。 |
| | 135 特記事項 | 配線、設置工事、建築・設備の改修工事、院内既存システムとの接続工事一切は本体価格に含むこと。 なお接続に必要な相手側機器、システムのインターフェイスや仕様変更、その他についても本体価格に含むものとし、詳細内容については、各機器に合わせて協議して決定していくものとする。 本システムと当院の病院情報システムとの接続については、事前に当院の総務課システム担当及び放射線部担当者と協議し、了解を得てから実施すること。すべての改修工事は事前に当院施設担当と協議し了解を得ること。 |
| | 136 受入試験 | 受入試験項目について、放射線部担当者と合意の上、試験を実施すること。 |
| 137 グリーン購入 | 製品等の導入にあたっては、循環型社会の形成のため積極的にグリーン購入を行うこと。詳細は放射線部担当者と事前協議すること。 | |
| 138 書類作成 | 関係省庁への設置届けに必要な書類(漏洩線量測定結果を含む)を作成して提出すること。特に労働基準監督署に提出が必要な書類や装置の簡易操作マニュアル等は、装置設置30日前までに提出が可能になるよう準備すること。また、当院独自の「装置カルテ」の様式に合わせた書類を作成し、デジタルデータで提出すること。詳細は当院放射線部担当者と協議のうえ決定すること。 | |
| 139 ウイルス対策 | 機器の操作・制御・メンテナンス等にパソコンを使用する場合はウイルス対策が施されていること。 | |